

浦上キリシタン資料館

この小さな資料館は、長崎市北部の住宅街に立つマンションビルの 1 階で、浦上天主堂から徒歩 5 分ほどのところにあります。この資料館は実績のある出版社の経営者が一部を個人の寄付に頼って運営しているもので、入場は無料です。名前の通り、この資料館は浦上のキリスト教の歴史を紹介しており、特に比較的近年に起こった二つの悲劇的な出来事に焦点を当てています。そのひとつは浦上四番崩れ（1867-1873）です。この日本当局によるキリスト教弾圧の最後の試みでは、数千人の浦上キリシタンが日本各地に流配され、数百人の命が犠牲となりました。もうひとつは 1945 年 8 月 9 日の長崎への原爆投下です。原爆によって浦上のキリシタン 12,000 人のうち約 8,500 人が命を失いました。小さい資料館ではあるものの、ここでは常設展示の他に小規模な特別展も行われています。資料館の奥ではカトリック関連の映画が紹介されており、手前ではキリスト教関連の書籍や記念品が販売されています。